恩膳西遺跡

（第４次発掘調査）

堆肥センター建設に先立つ

緊急発掘調査報告書

1995．1

長野県原村教育委員会

表紙地図10,000分の1 ○印が恩籍西遺跡

序

このたび平成６年度の恩膳西遺跡第４次発掘調査報告書を刊行することとなりました。

調査の結果、幸い遺跡の中心部から外れていたことがわかり、破壊された範囲は最小限にとどまっています。

村内には、90ヵ所をこえる遺跡が知られています。ここ恩膳西遺跡は、昭和62年度に原村農業協同組合がライスセンターを、また、平成５年度には諏訪みどり農業協同組合が育苗センターを建設しています。それぞれの工事に先立ち発掘調査を実施し記録保存をはかってきましたが、村内のいたるところで、工場建設やそれらに関連した遺跡内の土木工事が多くなってきています。

発掘調査に携わるたびに、貴重な文化遺産を大切にするとともに、後世に伝えていく責任を強く感じるものであり、こうした開発の流れの中で、いかなる形で遺跡を保護していくか、最も妥当な方法を検討しているところであります。

発掘にあたり、県教育委員会の御指導ならびに発掘にかかわる多くの皆様の御協力に深甚なる謝意を表する次第であります。

また、発掘調査報告書刊行に至る経過において、お世話いただいた関係各位に対して厚くお礼申しあげます。

平成７年１月

原村教育委員会
教育長　平林　太尾

例　言

1　本報告は堆肥センター建設に先立って実施した、長野県諏訪郡原村八ッ手に所在する恩騰西遺跡の第4次緊急発掘調査報告書である。

2　発掘調査は、諏訪みどり農業協同組合の委託をうけた原村教育委員会が、平成6年5月25日から31日にかけて実施した。

3　現場での記録は、平出一治・平林とし美が行い、土器の拓本・図面の作図とトレースは平林、写真撮影は平出・平林が行った。執筆は平出・平林が話合いのもとに行った。

4　本調査の出土遺物、記録等はすべて原村教育委員会で保管している。
なお、本調査関係の資料には、23の原村遺跡番号を表記した。

発掘調査から報告書作成にわたって、小平和夫・武藤雄六両氏に御指導・御助言をいただいた。厚く御礼申し上げる次第である。

目　次

序
例　言
目　次
1　調査に至る動機と経過 …… 1
2　発掘調査組織 …… 2
3　発掘調査の経過 …… 2
4　遺跡の位置と環境 …… 2
5　グリッドの設定と調査方法 …… 6
6　発掘の状況と土層 …… 7
7　遺　物 …… 8
8　ま と め …… 8
参 考 文 献

1　調査に至る動機と経過

恩膳西遺跡（原村遺跡番号23）に堆肥センター建設計画が持ち上がり、平成５年度に原村役場農林課と協議を行った。建設要望は強いが具体的な計画立案はなく、結論を導きだす事はできなかった。平成６年度に入ると建設計画は急激に進展し、諏訪みどり農業協同組合、原村役場農林課、原村教育委員会の３者で数回におよぶ協議を行った。

遺跡は現状のまま保存していくのが最も望ましいが、協議では、本遺跡はすでに昭和62年度にライスセンター（建設当時は原村農業協同組合）、平成５年度には育苗センターを諏訪みどり農業協同組合が建設してきている地域であり、また、平成５年度には県営圃場整備事業恩前地区の諸開発に先だって緊急発掘調査を実施し、記録保存を行った地点に隣接していることや、地元の強い要望から「記録保存やむなき」との考に落ち着き、緊急発掘調査を実施し、記録保存をはかる方法で同意をみることができた。

その後も、諏訪みどり農業協同組合と原村教育委員会では協議を進め、発掘調査の委託を受けた村教育委員会は、平成６年５月20日～31日に調査を実施した。

恩膳西遺跡（発掘地区）遠景

2　発掘調査組織

恩勝西遺跡第４次発掘調査団名簿

団　　長　平林　太尾（原村教育委員会教育長）

調査担当者　平出　一治（原村教育委員会）

調　査　員　平林とし美（原村教育委員会）

調査参加者　小池英幸　小池静子、清水つるゑ、清水けさ　（順不同）

事　務　局　原村教育委員会事務局　　平林今朝二（教育次長）、大口美代子（庶務係長）、宮坂道彦（主任）、伊藤佳江、五味一郎（文化財係長）、平出一治、平林とし美

3　発掘調査の経過

平成 6年 5月20日　発掘準備をはじめる。

5月25日　上物の片付けとグリッド設定を行い、グリッド発掘をはじめる。

5月26日　引き続きグリッド発掘を行う。

5月27日　小雨のため発掘作業を休み記録作業を行う。

5月30日　引き続きグリッド発掘を行い、片付けをはじめる。

5月31日　機材の片付けを行い、今日で調査は終了する。

4　遺跡の位置と環境

恩勝西遺跡（原村遺跡番号23）は、長野県諏訪郡原村6943番地１付近に位置する。

このあたりは八ケ岳西麓のほぼ中央に位置し、裾野の２kmほど上から開析のはじまる前沢川左

第１図　原村域の地形断面模式図（赤岳―恩勝西遺跡―宮川ライン）

岸に発達した尾根上から緩やかな南斜面に立地している。

本遺跡は、第3図に示したように昭和62年度に遺跡確認調査（第1次）にひきつづき、ライスセンター建設に先立つ緊急発掘調査（第2次）、平成5年度には県営圃場整備事業恩前地区に先立つ緊急発掘調査（第3次）を実施している。第1・2次調査では、縄文時代早期と中期の土器破片と石器を発見したが、遺構を検出するまでには至っていない。第3次調査は旧石器時代の石器、縄文時代中期の住居址1軒、平安時代の住居址9軒を発見調査し、旧石器時代、縄文時代そして平安時代の複合遺跡であることがわかってきている。しかし、それぞれ占有地が違っていたようであり、住居址や小竪穴などの遺構が重複していることはなかった。

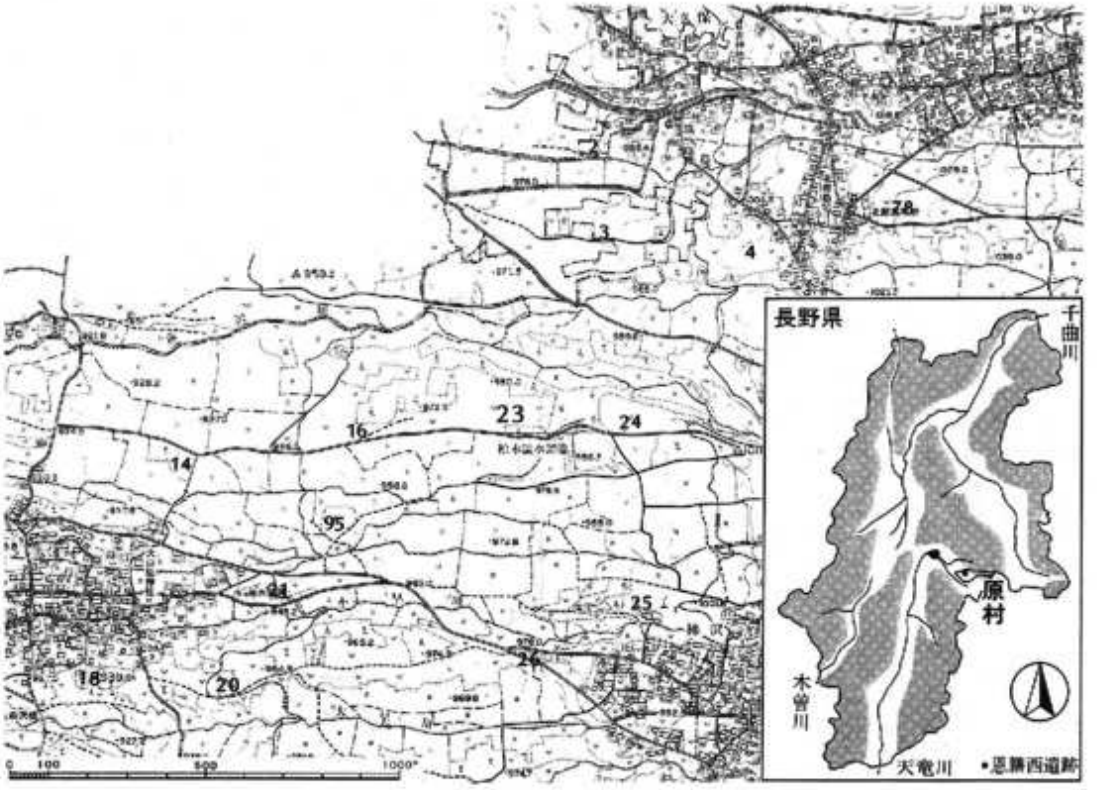
尾根幅は広い所で 100mを計り、一見したところ縄文時代の遺跡として条件に恵まれているように見えるが、尾根上は緩やかに北西方向に傾斜している。それが本遺跡の性格や規模に多大な影響をあたえたものと思われる。また、平安時代は当地方における典型的な日溜まり地形が形成された立地であった。標高は 988m前後を計り、地目は山林・普通畑および水田で、山林と普通畑の保存状態は比較的良かった。水田は昭和30年代の造成と聞いているが、その破壊状況は著しかった。

本調査地点は、第1・2次調査地区の南、第3次調査地区の東に接する。遺跡全体からみたら南東外縁部に位置し、そこは尾根上から南斜面部分に位置する。しかし、斜度はやや強く当地方

発掘風景

表1　恩膳西遺跡と付近の遺跡一覧

番号	遺跡名	旧石器	縄文						弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	備考
			草	早	前	中	後	晩							
1	家裏	○				○						○			昭59年度発掘
2	大久保前											○			消滅
3	向尾根	○	○			○									昭54年度発掘
4	横道下					○						○	○		昭54年度発掘
14	裏長峰					○						○			平4年度発掘
15	程久保			○		○						○		○	平4・5年度発掘
18	前尾根西					○									昭51年度一部破壊
20	前尾根					○	○					○			昭44・52～54・59年度発掘
21	上居沢尾根					○	○							○	平4年度発掘
23	**恩膳西**	○				○	○					○			昭62・平5・6年度発掘
24	恩膳			○		○	○					○			昭62年度詳細分布調査
25	裏尾根					○									
26	家下					○									昭59年度発掘
78	弓振日向	○			○	○									昭60・61年度発掘
95	土井平											○			平成4年度発掘

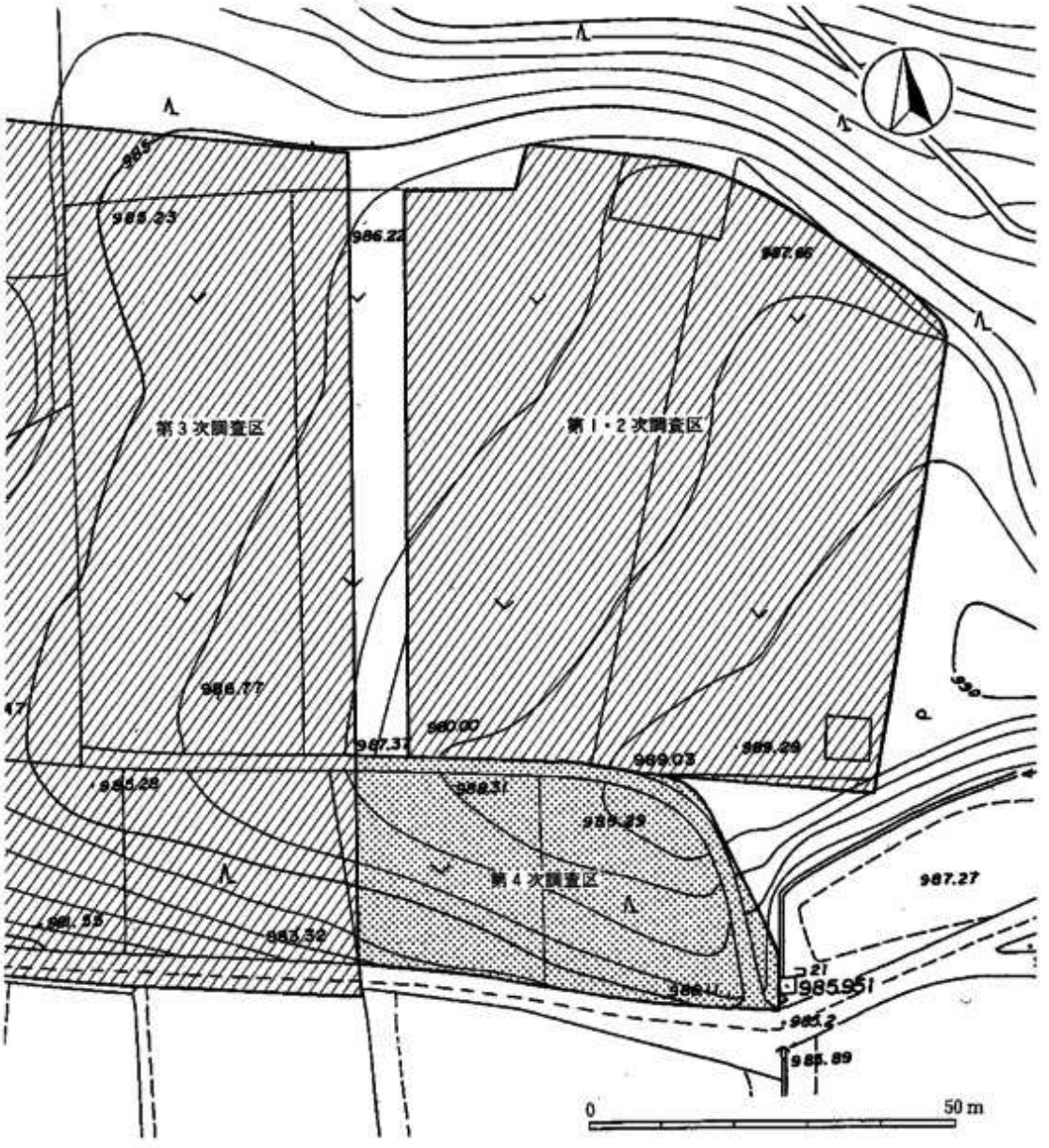


第2図　恩膳西遺跡の位置と付近の遺跡（1：20,000）

における遺跡立地としてはあまり良くなかったようである。

これより西は、約3,000m先でフォッサマグナの西縁である糸魚川―静岡構造線の断層崖に沿って北へ流れる宮川によって断ち切られる。

八ケ岳西南麓一帯の尾根上には、縄文時代を中心とした遺跡が数多く埋蔵されている。この恩膳西遺跡の周辺にも、第2図および表1に示したように大小様々の遺跡が分布し、その密度は極めて高い地域である。



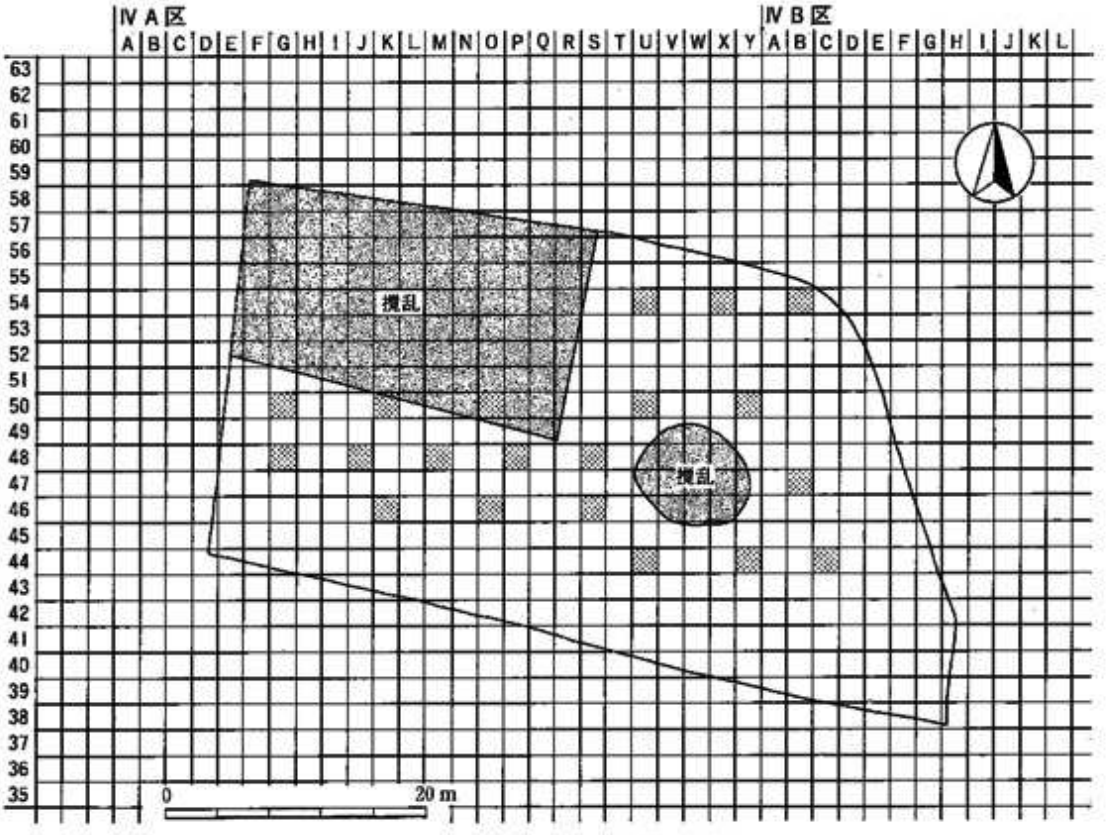
第3図　恩膳西遺跡発掘調査区域図・地形図（1：2,000）

5　グリッドの設定と調査方法

発掘に先立ち、東西南北に軸を合わせた２ｍ四方のグリッドを設定したが、東西方向には50ｍの大地区を設け、東からＡ区・Ｂ区というようにアルファベットを用いて地区割りをした。その大地区の中をさらに２×２ｍの小地区（グリッド）に分割し、東西方向は東からＡ～Ｙのごとく区分した。南北方向には算用数字をふったが北にいくにしたがい大きくなる。

個々のグリッドの呼びかたは、たとえば第４図グリッド配置図の右上方の2×2mの発掘グリッドでみると、大地区はＢ地区であり、小地区の東西方向はＢラインにあたることから、大地区・小地区を並べた「BB」となり、南北方向が54ラインで、それは「BB－54」となるが、本調査を便宜上第４次発掘調査と呼んだことから、「ＢＢ－54」の前に第４次発掘調査を示す「Ⅳ」を表記した「Ⅳ BB－54」となる。

グリッド発掘は、ソフトローム層の上面まで行ったが、炭焼きをしたと思われる径８ｍ位の攪乱穴、すでにパイプハウスの設置で地山のローム層まで削平されている箇所もあり、また、立木の状況等によって、調査したグリッドの密度は一定していない。



第４図　グリッド配置図（1：600）

6　発掘の状況と土層

第4図のグリッド配置図に示したように20グリッド、80m²の平面発掘を層位別に実施したが、遺構を検出するまでには至らなかった。

ソフトローム層までの深さは、20～58cmとグリッドにより違いがみられた。本遺跡の基本層序は次のとおりである。おおまかな観察結果を記しておきたい。

第Ⅰ層　黒褐色土層　　表土・腐食土層で4～8cm。

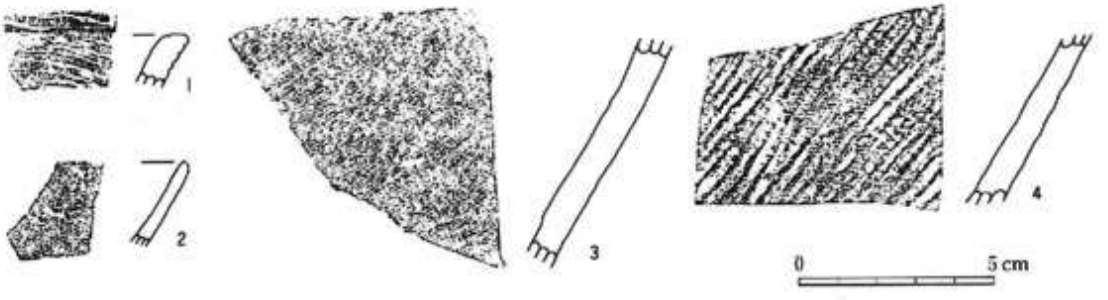
第Ⅱ層　黒褐色土層　　第Ⅰ層よりしまっている。本層は尾根上で認められただけであるが11～21cmを計る。

第Ⅲ層　黄褐色土層　　やはり尾根上で認められただけであり20～28cm。

第Ⅳ層　黄褐色土層　　ローム漸移層。

なお、斜面はその斜度がきついため、土の流出が著しかったようで、ローム層まで20cm前後を計るが、深いグリッドは表土→黒褐色土→黄褐色土→ローム。浅いグリッドは表土→褐色土→ロームとなり、安定した層序ではなかった。

土層断面（ⅣAY－50グリッド北壁）



第5図　土　器　拓　影（1：2）

7 遺　　物

発掘調査の結果、全て小破片であるが縄文時代早期の土器破片１点、平安時代の須恵器２点と土師器15点を発見しただけで、遺構を検出するまでに至っていない。

それらの資料に若干の説明を加えてみたい。

縄文・平安時代の土器とも小破片ばかりで器形を復元することはできないが４点を図示した。

縄文時代

第５図１は、口唇部から外面に撚糸が施された、縄文時代早期に帰属する口縁部破片である。

平安時代

第５図２は、土師器の坏口縁部破片で、成形・焼成とも普通である。３と４は、須恵器の大壺の胴部破片で、外面にタタキ痕がみられる。３のタタキ痕は擦り消されたような状態である。

8 ま と め

第１～３次調査の成果からみて、本調査地点が遺跡の南東外縁部に位置していることは予想できるものであったが、やはり調査の結果、遺構を検出するまでにはいたらず、縄文時代と平安時代の僅かな土器を発見しただけである。

第１・２次調査で確認している縄文時代早期についてみると、発見遺物は１点と少なく、規模は小さいようである。

第３次調査で集落跡が確認できた平安時代についても、やはり発見遺物は少なく、本調査の成果から遺跡の性格を物語ることはできないが、いずれにせよ、遺跡の南東外縁部の様子の一端を窺うことができたといえよう。

最後に、関係者各位ならびに発掘調査にたずさわった方々に厚く御礼申し上げる次第である。

参 考 文 献

1980.03　長野県教育委員会『昭和54年度　八ケ岳西南麓遺跡群分布調査報告書』

1985.07　原村役場『原村誌　上巻』

1989.03　原村教育委員会『原村の埋蔵文化財13　恩譜西遺跡（第１次・第２次）　遺跡確認とライスセンター建設に伴う緊急発掘調査報告書』

報告書抄録

ふりがな	おんぜんにし
書名	恩膳西遺跡（第4次発掘調査）
副書名	堆肥センター建設に先立つ緊急発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	原村の埋蔵文化財
シリーズ番号	28
編著者名	平出一治　平林とし美
編集機関	原村教育委員会
所在地	〒391-01　長野県諏訪郡原村6549番地1　TEL　0266-79-2111
発行年月日	西暦　1995年1月20日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 度分秒	東経 度分秒	調査期間	調査面積 m²	調査原因
恩膳西（おんぜんにし）	長野県諏訪郡（ながのけんすわぐん） 原村（はらむら）	3637	23	35度 58分 16秒	138度 12分 53秒	19940525 ～ 19940530	80	堆肥センター建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
恩膳西	集落地	縄文時代 早期 平安時代 後期		縄文 早期土器破片 平安 須恵器・土師器破片	

原村の埋蔵文化財28

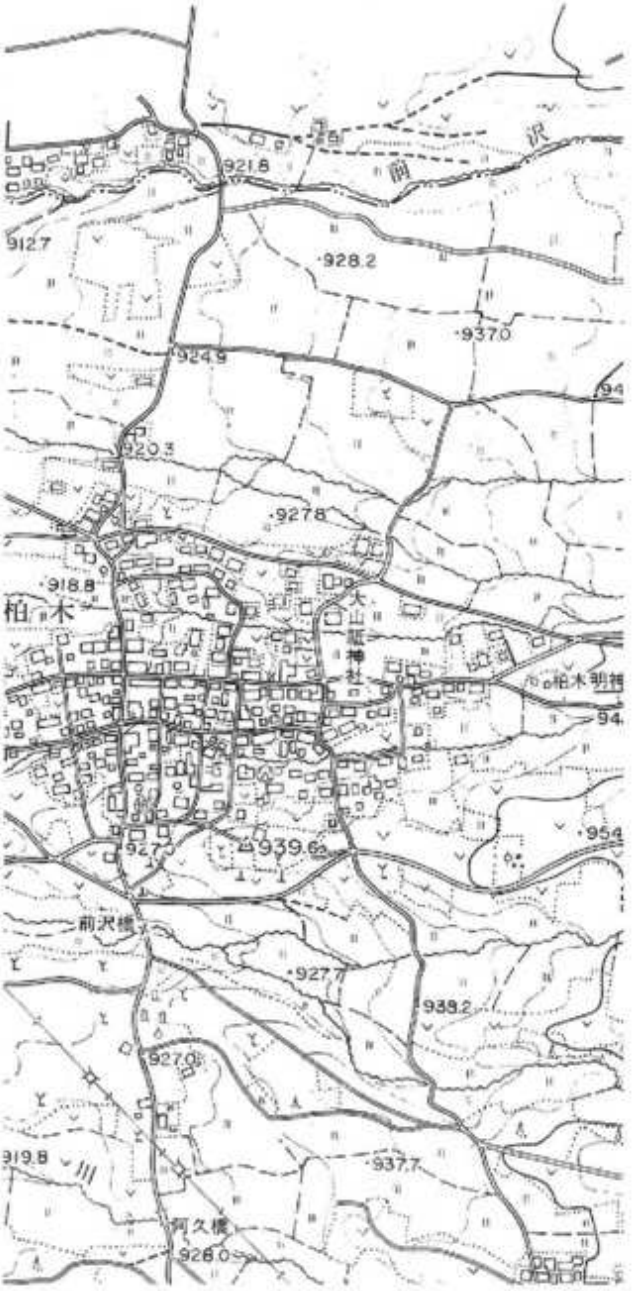
恩勝西遺跡（第４次発掘調査）

堆肥センター建設に先立つ
緊急発掘調査報告書

発行日　平成７年１月20日

発　行　原村教育委員会
長野県諏訪郡原村

印刷所　日本ハイコム株式会社
塩尻市北小野 4724
TEL 0263-56-2111


921.8
912.7
928.2
937.0
924.9
920.3
927.8
918.8
柏木
大山祇神社
柏木駅
939.6
927.7
前沢橋
927.7
938.2
927.0
919.8
937.7
河久橋
926.0